

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-4200

(43)公開日 平成5年(1993)1月22日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

G 1 0 K 11/22

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

Z 7350-5H

審査請求 未請求 請求項の数9(全 3 頁)

(21)出願番号 実願平3-59149

(22)出願日 平成3年(1991)7月2日

(71)出願人 591163708

原田 睦巳

神奈川県横浜市磯子区岡村7-11-22

(72)考案者 原田 睦巳

神奈川県横浜市磯子区岡村3-6-20

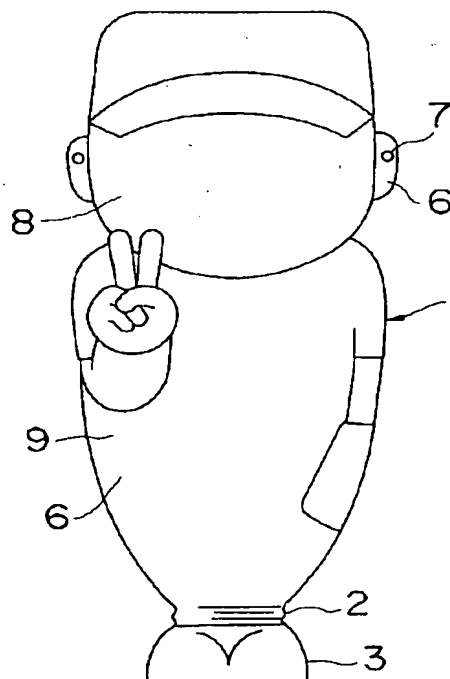
(74)代理人 弁理士 奥山 尚男 (外2名)

(54)【考案の名称】 応援用メガホン

(57)【要約】

【目的】 応援用メガホンのデザインの向上を図る。

【構成】 先太部4に人物、動物、漫画のキャラクター等をあしらった形状を付した。



BEST AVAILABLE COPY

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 先太状に形成した中空体のグリップ部下端に口当て部を有し、先太部の先端に声放出用の開放開口部を備え、人物、動物、漫画のキャラクター等をあしらった形状を付した応援用メガホン。

【請求項2】 上記先太部に人物、動物、漫画のキャラクター等をあしらった形状を付したことを特徴とする請求項1に記載の応援用メガホン。

【請求項3】 上記先太部にユニフォーム姿の人物をあしらった形状を付したことを特徴とする請求項2に記載の応援用メガホン。

【請求項4】 上記先太部にユニフォーム姿の野球選手をあしらった形状を付したことを特徴とする請求項3に記載の応援用メガホン。

【請求項5】 上記形状を付した先太部の裏面に打撃面を設けたことを特徴とする請求項1ないし4のいずれか1に記載の応援用メガホン。

【請求項6】 上記あしらわれている人物、動物、漫画のキャラクター等の耳部に懸架用の紐を挿通するようにしたことを特徴とする請求項1ないし5のいずれか1に記載の応援用メガホン。

【請求項7】 上記あしらわれている人物の顔の部分所定の顔部シールにより貼り替え可能としたことを特徴とする請求項1ないし6のいずれか1に記載の応援用メガホン。

【請求項8】 上記あしらわれている人物の胴体の部分を所定の胴体部シールにより貼り替え可能としたことを特徴とする請求項1ないし7のいずれか1に記載の応援用メガホン。

【請求項9】 上記口当て部を上記人物、動物、漫画のキャラクター等の足部として構成し、該足部に連続する延長脚部が上記メガホン本体から伸縮自在に出没してなることを特徴とする請求項1ないし8のいずれか1に記

載の応援用メガホン。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】 図1は、本考案にかかる応援用メガホンの実施例の正面図である。

【図2】 図2は、本考案にかかる応援用メガホンの実施例の脚部を伸ばした状態の側面図である。

【図3】 図3は、本考案にかかる応援用メガホンの実施例の脚部を伸ばした状態の一部破断側面図である。

【図4】 図4は、本考案にかかる応援用メガホンの他の実施例の正面図である。

【図5】 図5は、本考案にかかる応援用メガホンの図4の実施例の背面図である。

【図6】 図6は、本考案にかかる応援用メガホンの図4の実施例の左側面図である。

【図7】 図7は、本考案にかかる応援用メガホンの図4の実施例の右側面図である。

【図8】 図8は、本考案にかかる応援用メガホンの図4の実施例の平面図である。

【図9】 図9は、本考案にかかる応援用メガホンの図4の実施例の底面図である。

【図10】 図10は、本考案にかかる応援用メガホンのさらに他の実施例の左側面図である。

【図11】 図11は、本考案にかかる応援用メガホンの図10の実施例の右側面図である。

## 【符号の説明】

- 1 メガホン本体
- 2 グリップ部
- 3 足部（口当て部）
- 4 先太部
- 6 耳部
- 8 顔部
- 9 胴部
- 10 延長脚部

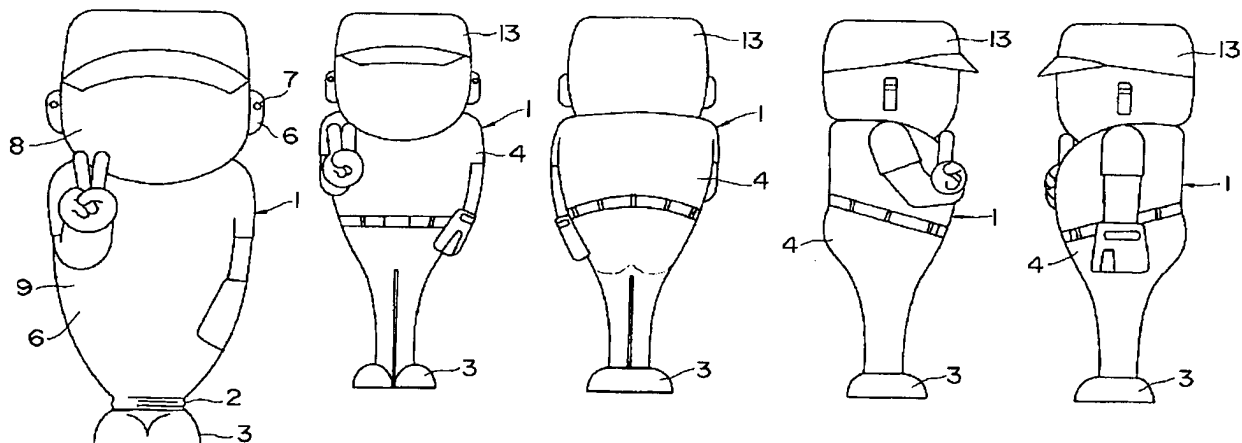
【図1】

【図4】

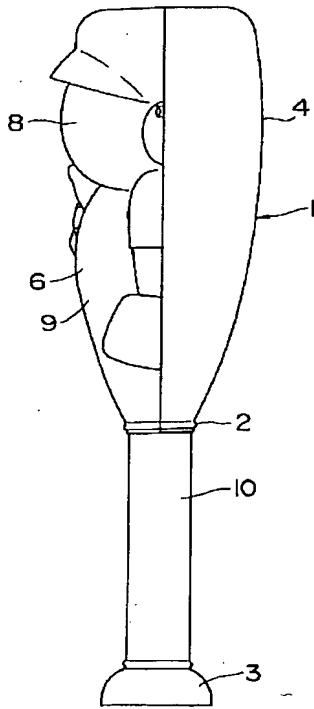
【図5】

【図6】

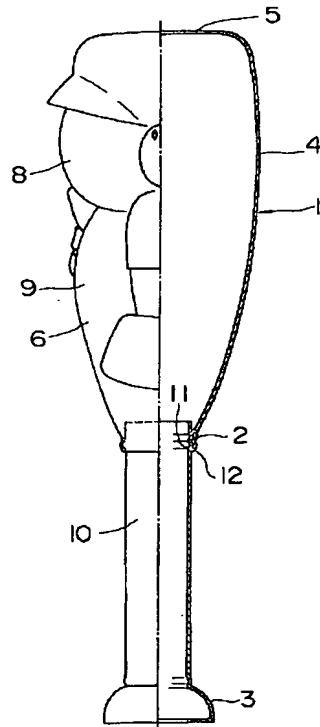
【図7】



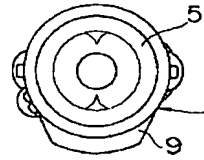
【図2】



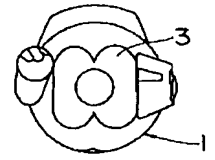
【図3】



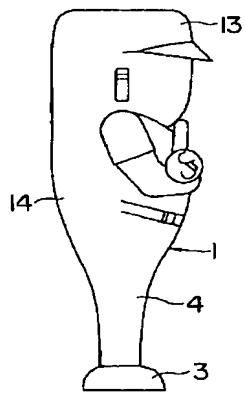
【図8】



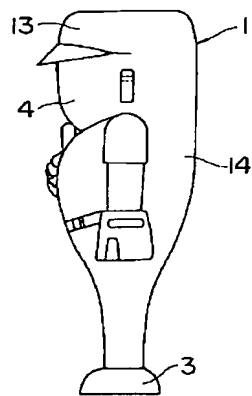
【図9】



【図10】



【図11】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、人物、動物、漫画のキャラクター等をあしらった応援用メガホンに関する。

**【0002】****【従来の技術】**

本考案者は、先にバット形メガホンを考案し（実願昭59-116877号、実公昭2-45920号）、これについて、平成3年4月26日付けで登録査定を受けている。この考案にかかるバット形メガホンは、球界ファンに多大な好評を得て、プロ野球の一試合での売上も6,000本を超えることが珍しくなく、その生産本数も年間85万本を超えるに至った。したがって、本考案者は、この種のスポーツ玩具の分野において多大な産業上の貢献をなし得たものと自負している。本考案は、上記先行するバット形メガホンを改良した応援用メガホンにかかるものである。

従来のバット形メガホンは、これを叩き合わせ、あるいは、これがメガホンとして利用されることにより、観客の試合に対する参加度を高め、試合に参加している選手の士気を大いに盛り上げるという役割を果たしていた。

**【0003】****【考案が解決しようとする課題】**

しかし、上記従来のバット形メガホンは、デザインの的にシンプル過ぎるくらいがあり、例えば一旦持ち帰られた場合室内に飾るには趣味感に欠ける等の面があり、趣味商品として今一步の工夫が望まれていた。

**【0004】****【課題を解決するための手段】**

本考案は上記事情に鑑みてなされたもので、先太状に形成した中空体のグリップ部下端に口当て部を有し、先太部の先端に声放出用の開放開口部を備え、上記先太部に人物、動物、漫画のキャラクター等をあしらった形状を付した応援用メガホンを提供するものである。

## 【0005】

## 【作用】

本考案では、応援用メガホンの先太部に、人物、動物、漫画のキャラクター等をあしらうことにより、持ち帰られた場合、室内に飾るに足り、趣味商品として優れた応援用メガホンを提供して、主として野球ファンの要望に応える。

## 【0006】

## 【実施例】

以下に添付図面に示した実施例を参照しながら、本考案にかかる応援用メガホンを説明する。

## 【0007】

添付図面において、図1は、本考案にかかる応援用メガホンの実施例の正面図である。図2は、本考案にかかる応援用メガホンの図1の実施例の脚部を伸ばした状態の側面図である。図3は、本考案にかかる応援用メガホンの図1の実施例の脚部を伸ばした状態の一部破断側面図である。

## 【0008】

図1において、1は、本実施例にかかる応援用メガホンの本体を示す。図示のように、本実施例にかかる応援用メガホン本体1は、先太状の中空体として形成されており、グリップ部2の下端に末広状の口当部3を備えている。図3に示されるように、先太部4の先端には、声放出用の開放開口部5が設けられている。

## 【0009】

図示のように、本実施例にかかる応援用メガホンの上記先太部4の表側面6には、ユニフォーム姿の野球選手があしらわれている。このユニフォーム姿の野球選手の形状は、応援用メガホンを合成樹脂により成形する際に一体に形成することができる。先太部4の裏面は、打撃面となっており、応援の際メガホン同士を叩き合わせることができるようになっている。

## 【0010】

上記先太部4のユニフォーム姿の野球選手の耳部6には、挿通孔7が設けられており、この挿通孔7に使用者の首にメガホン本体1を吊るすための紐を挿通することができる。

## 【0011】

上記あしらわれている人物（ユニフォーム姿の野球選手）の顔の部分8は所定の顔部シール（図示せず）により貼り替え可能とすることができる。これによって野球ファンの好み（例えば人気選手の似顔）に対応することができる。

## 【0012】

また、あしらわれている人物（ユニフォーム姿の野球選手）の胴体の部分9を所定の胴体部シール（図示せず）により貼り替え可能とすることができる。これによって、各球団のユニフォームを着せることが可能となる。

## 【0013】

さらに、本実施例では、上記口当て部3を上記ユニフォーム姿の野球選手の足部として構成し、該足部3に連続する延長脚部10が上記メガホン本体から伸縮自在に出没できるようにしている。この延長脚部10は、図2、図3の最長位置において、あるいは中間位置において、所定の係止手段によって係止保持される。なお、実施例においては、グリップ部2の断面波形部11、12同士が噛み合って係止保持される。

## 【0014】

上記構成により、本実施例にかかる応援用メガホンは、野球場において、メガホンとして、あるいは叩き合わせられることによってその機能を発揮し、デザイン的にも野球ファンの要望に応えるものである。さらに、一旦持ち帰られた場合にも、脚部10を縮小して室内に飾ることができ、ファンシー・グッズとしても優れた機能を発揮する。

## 【0015】

さらに、図4ないし図9は、本考案にかかる応援用バットの他の実施例を示したものである。この実施例では、脚部が伸縮せず足部3と先太部4とが一体の中空成形体に成形されている他は、上記図1の実施例とほぼ同様の構成となっている。なお、この実施例もユニフォーム姿の野球選手をあしらっているが、頭部13あるいは全体について、各球団を象徴するキャラクターをあしらうことができる。例えば、頭部13にライオン、鯉、鯨、虎等の各野球球団独特のキャラクターをあしらうことができる。さらに、この場合着用するユニフォームは各球団の

デザインとすることができる。

【0016】

またさらに、図10ないし図11は、本考案にかかる応援用バットのさらに他の実施例を示したものである。この実施例は、上記図4ないし図9の実施例と同様の構成を有するが、裏側面14を打撃面として構成したものである。

【0017】

なお、上記実施例においては、ユニフォーム姿の野球選手を外形としてあしらったが、他のユニフォームの姿の人物や他の人物、動物あるいは漫画のキャラクターをあしらうことも勿論できる。

【0018】

【考案の効果】

本考案によれば、デザインの的に優れ、野球ファンのニーズに応える応援用メガホンが提供されるので、この種の応援用メガホンの趣味商品としての利用価値を高めることとなり、その効果は大きい。

inis Page Blank (uspto)